

赤ちゃんの誕生が年長の同朋に及ぼす影響とその対策

研究第6部 権平俊子・山本清恵
稗田涼子
共同研究者 結城静江(教養施設)
山田正子(城北幼稚園)

I はじめに

われわれは情緒障害児に対して、その問題を解決するために、子どもに遊戯治療、それと併行して母親のカウンセリングを行ってきた。その臨床経験の中で、赤ちゃんが出生する前後の親子関係やきょうだい関係にいろいろの問題を生じ、情緒障害を起す原因の一つになっている事例に数多く接してきた。そのようなことから、赤ちゃんが生れた時、その兄姉がどのように感じて、家族の一員として生活していくかということが、子どもの情緒の発達にとって重要なことだと考えるようになった。

児童分析家のアンナ・フロイト(Anna Freud)はその著書⁽¹⁾「児童分析入門、第1講、幼児性健忘症とエディプス・コンプレックス」の中で、「小さい子どもが自分のきょうだいを敵だと思い、きょうだいに嫉妬して満足しきっていた元の状態を復活させるには、きょうだいがいなくなればと願っている、と、それに続けて、このようにきょうだいが死んだらよいという願望は小さい子ども側からすると当然のことである、その子が母親を自分のものにしたければしたいほど、この願望は激しくなる。つけ加えて、子どもは敵意に満ちた気持だけを最初は持っている。しかしながら、どうも不可解なことに、母親は自分にとっては邪魔なきょうだいのも可愛がっていることがわかり、母親がよくない考えはやめなさいとか、お母さんはみんなのお母さんで、きょうだいとも仲よくしなさいと、その子に要求しはじめると、情緒的な葛藤が起る、ここに家族内における、子ども同士の関係に結びついた問題の出発点がある。」と述べているように、きょうだいの関係をどのように扱っていくかは情緒の発達に影響を与えている。

特に核家族が多くなってきている現在、出産の時、幼い兄・姉の面倒をみる人手がなく、兄・姉の不安が募ることも多い。そこで、この問題につき、1) 第2子が生

れる時、第1子をどのように扱い、また第1子がどのように変化したかについて、幼稚園在園児の母親にアンケート調査を行った。2) 幼稚園在園児で、赤ちゃんが誕生した子どもの中で、赤ちゃん誕生の前後に、情緒的な問題行動が表れたり、ひどくなった子どもにつき、事例研究を行った。その結果につき検討を加え、情緒障害発生の予防として役立てていきたいと考え、本研究を行った。

II 母親に対する調査結果の分析

1. 調査の目的

第2子の誕生のために、第1子にみられる変化の実態を知り、同時に母親の第1子の扱い方及び環境の実態を知ることが目的として、幼稚園児の母親に本調査を施行した。

2. 調査の方法及び対象

調査対象として、都区内J幼稚園と日立市内F幼稚園に協力を仰ぎ、2人以上の子どもを持つ園児の母親に対して、質問紙により調査を依頼した。(付表1参照)

調査項目は、1) 第2子誕生時における家族構成及び環境、(項目1~5) 2) 第2子の妊娠から出産後の第1子に対する母親の接し方及び処遇と、第1子の行動の変容について、(項目6) 3) 母親の対人関係における性格特徴(項目7)の3つの部分で構成され、選択肢形式の記入法とした。

有効回収数は、次のとおりである。

J幼稚園 218(この中、家族構成及び環境については追加再調査を行ったので、全調査項目の有効回収数は186である)

F幼稚園 124(全調査項目については84)

3. 結果と考察

1) 第2子誕生時の家族構成及び環境の集計結果は、表1、2、図1のとおりである。

表1 子どもの年令差(総数 270)

年令差	~1	~1.5	~2.0	~2.5	~3.0	3.0~	NA
%	0.7	9.3	18.5	22.6	15.5	33.0	0.4

表2 父母の学歴(342)

学歴	中卒	高卒	専門学校卒	短大卒	大卒以上	NA
父	6.4	41.8	7.3	1.2	40.9	2.3
母	5.6	56.7	10.5	16.4	8.2	2.6

表3 出産のための第1子の世話(総数 342)

誰に	祖父母その他に預ける 家で家族が	(47.1%) (37.1%)
いつ頃	入院中のみ 母子で実家に行く	(57.9%) (24.1%)
家事育児	実家で 自分で	(40.4%) (28.9%)

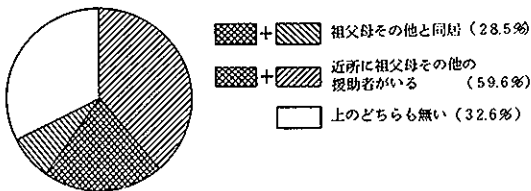


図1 援助者の有無

親の職業は、父親は殆んどが勤人(75.2%)であり、母親は殆んど専業主婦(83.7%)である。住居形体は一戸建(51.5%)が集合住宅(40.0%)よりやや多い。

2) 次に第2子妊娠時の第1子の扱いについての集計結果を分析してみる。妊娠を認知した時から、母親の第1子に対する接触は自ずと変わらざるを得ない。そこで、まず現実的に対処しなければならないことについて、具体的に回答を求めた。

① 次子誕生を第1子に知らせる時期については、最も多いのは、4~5ヶ月頃(32.2%)で、次は3ヶ月までに(27.8%)比較的早い時期に知らせている。又、知らせ方は「今度お兄ちゃんお姉ちゃんになる」と、長子である自覚を持たせた場合が、56.7%で最も多い。次いで、「生れることをはっきり云う」(27.8%)、「だっこなどしたがった時、お腹に赤ちゃんがいるから」(22.5%)と話している。(総数342)

② 出産時は当然、第1子の世話をひとに頼まなくてはならないわけだが、その世話は誰にいつ頃頼んでいるか又退院した後の家事育児はどうしたかについての回答を集計し、多いのを示すと表3である。

③ ここで、第2子の妊娠が母親にどの様に受けとめられていたかを問うた。自分の子どもを持つ期待や意義は、その時代の背景や国民性によっても異なるが、更に第2子は第1子とは違った意味で扱えられる筈である。

図2、図3が示すように、母親は第2子を欲しいと思

って生んでいる場合が多い。従って第1子の時の様に、期待感をもって出産を待ち望み、その上すでに母性が確立された母親として第1子の時と異り、自信をもって第2子に接すると思われる。それだけに、これから生れてくる第2子に向けて関心が強いということは十分考えられる。その場合、第1子の扱いはどうなるだろうか。では、不安だ、困ったと感じた母親はどうだろうか。その理由の殆んどは「上の子どもがまだ小さくて手がかかるから」である。これは全体からみると12.9%と少数であるが、この母親は実際上の子の世話に追われて、赤ちゃんを迎え入れる心の余裕が持てないからだろうがおそらくそれは母性が十分に確立されていないからではないだろうか。しかし、嬉しいと感じた母親の中にも少なからず、不安も感じたアンビバレンツな不安定さが予測され、これらも第1子との接触や扱い方に何らかの影響を及ぼすのではないだろうか。

④ そこで、実際に第1子に対する母親の接し方が変わったのはどんなことについてであったか、チェック(複数回答)してもらった。それによれば、2才前後までは排泄のしつけ、その後は洋服の着脱など身辺自立をしつけていて、それらは年令に応じて移行しており、むしろ発達に合わせたしつけであるという見方ができる。

しかし、母親を学歴別にみると、第1子の扱いは表5のように、中卒の母親(全体の5.6%)と大卒の母親(全体の8.2%)を比べると、全般的に中卒の母親の方がしつけを心がけている者が多い。

特に、身辺自立については中卒は高率を示し、大卒はかなり低い。(x²により危険率1%で有意差が認められる)また、大卒は扱いを変えていないと記している者が比較的多い。

⑤ では、第2子が生れたことで第1子に何か行動の変容がみられるだろうか。(複数回答)表6によれば、3才までは「甘えるようになった」が最も多く、他の退行現象は比較的あらわれていない。僅かにおもらしやおねしょなどの症状がみられる。むしろ赤ちゃんが生れたの

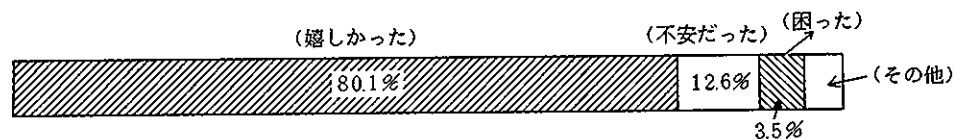


図2 第2子妊娠をどう感じたか (総数 342)

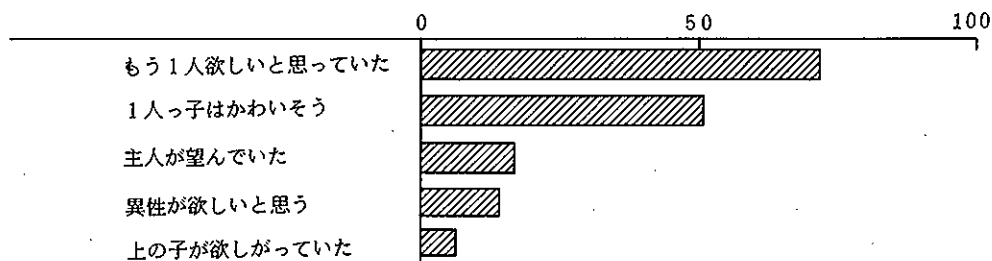


図3 嬉しかった理由 (複数回答)

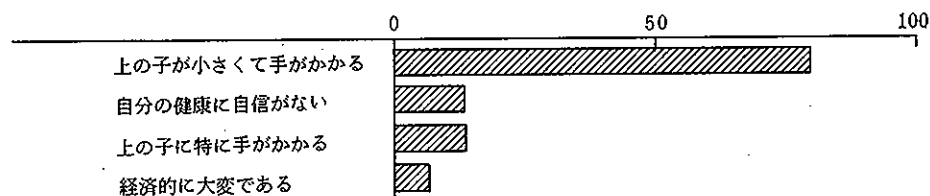


図4 不安だった、困ったの理由 (複数回答)

表4 母親の学歴別による第1子の扱い方 (総数 342)

	大学卒	短大卒	専門学校卒	高校卒	中学卒
	%	%	%	%	%
ア. 排泄のしつけ	(23.8)	(47.7)	(54.8)	(51.4)	(62.5)
a. おむつを早くとろうとした	19.0	22.7	12.9	24.7	12.5
b. 1人でトイレにいかせようとした	4.8	15.9	38.7	22.2	50.0
イ. 授乳	(9.5)	(15.9)	(9.7)	(14.6)	(25.1)
a. 母乳をやめさせる	9.5	6.8		8.9	18.8
ウ. 身のまわりのこと	(28.5)	(72.7)	(77.4)	(72.1)	(93.8)
a. ごはんを1人でたべさせる	9.5	20.5	16.1	15.8	37.5
b. 洋服を1人で脱ぎ着させる	19.0	22.7	32.3	29.7	31.3
c. 1人寝をさせる		22.7	25.8	22.8	25.0
エ. 子どもの世話を人にまかせる				1.3	6.3
オ. その他	9.5	9.1		7.0	6.3
カ. 変わらない	33.3	18.2	19.4	15.8	12.5
キ. 無答	4.8	6.8	3.2	6.3	6.3

表5 年齢別にみた第1子の行動の変容(総数 270)

行動の変容	年 令					
	1才未満	1才~1才半	1才半~2才	2才~2才半	2才半~3才	3才以上
	%	%	%	%	%	%
ア. 以前より甘えるようになった	100.0	24.0	44.0	42.6	33.3	30.3
イ. よそよそしくなった			4.0		4.8	1.1
ウ. 自分のことは自分でできるようになった		4.0	32.0	24.6	26.2	32.6
エ. 今までできていたことができなくなった			2.0	4.9		5.6
オ. おもらし, おねしょをするようになった			12.0	4.9	7.1	3.4
カ. 食事をたべさせてもらいたがるようになった		4.0	2.0	9.8	2.4	3.4
キ. 食事を1人で食べるようになった		12.0	8.0	9.8	16.7	6.7
ク. 1人寝をするようになった		12.0	16.0	19.7	31.0	18.0
ケ. 1人寝をしなくなった			4.0	1.6		1.1
コ. 衣服の着脱ができるようになった		4.0	12.0	18.0	11.9	20.2
サ. 衣服の着脱を親にしてもらいたがる		4.0	2.0	3.3		3.4
シ. その他の記入		36.0	10.0	16.4	19.0	22.5
ス. 変らない		12.0	8.0	1.6	4.8	5.6
セ. 無 答		20.0	4.0	6.6	7.1	10.1

表6 性別でみた第1子の行動の変容

行動の変容	性別		計 (342人)
	男	女	
	%	%	%
ア	36.9	34.3	36.0
イ	3.4	2.4	2.6
ウ	19.9	33.1	26.3
エ	4.0	3.6	3.8
オ	5.7	4.8	5.3
カ	2.8	6.0	4.1
キ	9.7	8.4	9.1
ク	15.9	21.7	18.7
ケ	1.1	1.8	1.8
コ	14.8	15.1	15.2
サ	2.3	2.4	2.6
シ	17.0	20.0	18.4
ス	6.2	4.2	5.3
セ	12.5	7.8	10.2

表7 母親の学歴別でみた第1子の行動の変容

行動の変容	学 歴				
	大学卒	短大卒	専門学校卒	高校卒	中学卒
	%	%	%	%	%
ア	38.1	36.4	32.3	38.0	18.8
イ			6.5	1.9	
ウ	19.0	27.3	29.0	26.6	31.3
エ	4.8		6.5	3.8	
オ	4.8	2.3	16.1	4.4	12.5
カ	4.8	2.3		5.7	6.3
キ	4.8	6.8	6.5	10.8	18.8
ク	9.5	20.5	16.1	20.3	25.0
ケ		2.3		1.9	
コ	9.5	11.4	6.5	18.4	18.8
サ	4.8	2.3	3.2	2.5	
シ	28.6	27.3	12.9	17.1	18.8
ス	4.8	9.1	12.9	3.8	
セ	9.5	6.8	6.5	7.6	25.0

を機に、年齢相応に身の自立が出来ている。

性別(表6)でも、「甘えるようになった」が男女とも多い。又女の子は姉としての自覚を促されるためか、赤ちゃんに対して母性が刺激され、「自分のことは自分でできるようになった」(男女差が危険率1%で有意である。)が、甘えるようになったのと同じ位に多く、「1人寝をするようになった」(有意差は認められない)がそれに次ぎ、男の子に比べて身の自立がみられる。

前述で、第1子の扱い方が母親の学歴別にみて多少差があったが、子ども自身の変化には違いがあるだろうか。「甘えるようになった」が中卒の母親の子どもには、比較的少ない。高卒以上の母親の子どもは30%以上が「甘えるようになった」を示している。(中卒の母親の子どもとその他の子どもの間に危険率1%で有意差がある。)多いのは「自分のことは自分でできるようになった」や「1人寝をするようになった」などで、母親にしっかりしつけ

権平他：赤ちゃんの誕生が年長の同朋に及ぼす影響とその対策

られた成果ではないだろうか。(表7参照)

次に、三世代家族等親子以外の同居者が居る場合はどうだろうか。表8にみるとおり、同居者が居ると、やはり「甘えるようになった」が高率を示し、その他の退行現象は非常に少ない。

また赤ちゃん誕生を第1子にいつ知らせたら効果的であるかは、特に顕著な違いはみられないが、5ヶ月以降

だとそれ以前に比べて表9によれば、「よそよしくなった」「おもらし、おねしょをするようになった」などの退行現象が僅かにみられる。

ここで甘えについて考えてみたい。多くの子どもは2才頃から自我が芽生えて、母親を自分とは違う存在として見えてくるようになる。それにともない子どもに自立反応が生じてくる。反面、それまで信頼関係をきずいて

表8 同居者による第1子の行動の変容(270人)

変容	同居有	無
ア	48.1%	31.1%
イ		2.6
ウ	20.8	29.0
エ	3.9	3.1
オ	2.6	7.3
カ	5.2	4.1
キ	7.8	10.4
ク	20.8	18.7
ケ	2.6	1.0
コ	11.7	16.6
サ	2.6	2.6
シ	15.6	20.7
ス	6.5	5.2
セ	9.1	8.8

表9 生まれることを知らせる時期による第1子の行動の変容(342人)

変容	妊娠期		
	3ヶ月迄	3~5ヶ月	5ヶ月以降
ア	38.9	34.5	35.3
イ	1.1	0.9	5.3
ウ	29.5	32.7	18.8
エ	3.2	5.5	3.0
オ	4.2	4.5	6.8
カ	3.2	3.6	5.3
キ	5.3	10.0	10.5
ク	21.1	20.0	16.5
ケ	1.1	0.9	3.0
コ	13.7	22.7	10.5
サ	5.3	2.7	0.8
シ	22.1	6.3	16.5
ス	6.3	4.5	5.3
セ	9.5	10.0	10.5

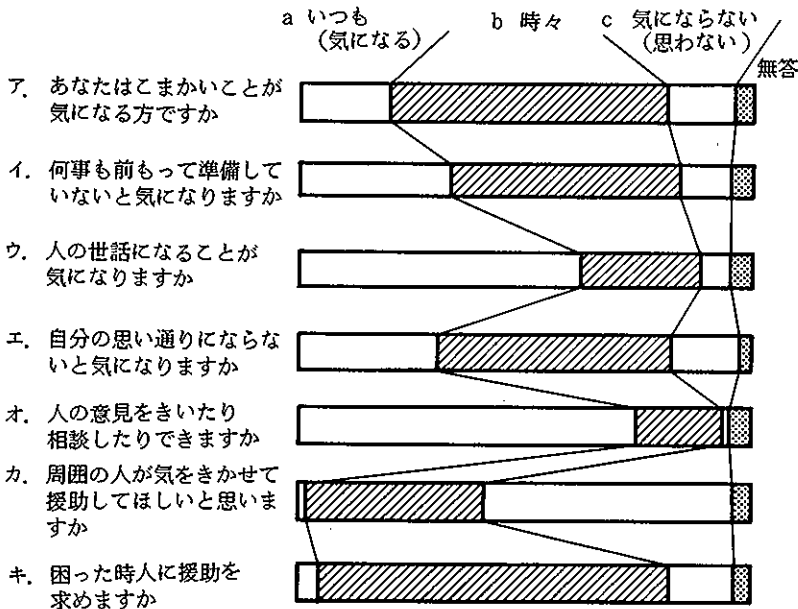


図5 母親の性格特徴

きたことによる、母親との一体感から脱けることができないで、母親に密着し、甘えの形でその信頼関係を確かめ、満足することも多い。従って2～3才児の甘えは心の核の部分を含んでいるといえるのではないだろうか。この調査の対象児は、赤ちゃんが生れるまでは1人っ子であり、自分に欠くべからざるものとしての母親に安住しきっていた筈である。そこに現れた赤ちゃんというちん入者に即ライバル意識を持っても仕方がないであろう。特に生れる頃まで予告をされていない場合は尚更である。土居健部は「甘えの構造」の中で、「甘えの心理が優勢である場合は逆にその蔭に分離についての葛藤と不安が隠されていると推理することも可能となるであろう。」と述べている。おもしろい、1人寝が出来なくなるなどの退行が起ってくるわけである。この調査でも、赤ちゃんが生れた時の第1子に特に気がついたことを、記してもらった中に、「吃るようになった」「ささいなことでもふくれるようになった」「爪を噛むようになった」「お兄ちゃんだからと云いすぎて反撥し、妹に乱暴するようになった」「夜中、授乳中起きている状態が続いた」等の情緒的な問題がみられる記述が多い。

一方、しつけをきっちりすることによって、身辺自立が出来てきている子どもも多いが、それらの中にも表面的にいい子であろうとするための緊張から、おもしろい、チック症等の症状を呈する場合がある。

3) 最後に、母親の対人関係における性格特徴の自己評価を付記する。図5でみるとおり常識的な回答が多い中で、「何事も前もって準備していないと気になりますか」、「人の世話になることが気になりますか」の2項目に、「気にならない」と答えた母親の子どもは、「自分のことは自分です」(33.3%, 38.1%)「1人寝をするようになった」(30.6%, 38.1%)が比較的多い。前項は臨機応変に対応できる性格であり、後項は協調性があり、周囲や物事にこだわらない情緒に安定している母親であると思われる。

子どもは母親に密着していることが多く、また母親を信頼していることから、母親の情緒がそのまま反映すると考えられる。従って次子出産に際しても、母親の情緒の安定こそ上の子どもの情緒障害予防には、欠かせないことである。

III 事例研究

(1)目的 IIに於て第2子妊娠とわかった時及び誕生時における第1子の変化と母親の子どもに対する接し方などについて報告したが、その中で第1子に変化がみられる

ことが明らかになったことから、幼稚園在園中に赤ちゃんが生まれた子どもについて幼稚園及び家庭ではどのような変化がみられたかについて調査した。その結果、赤ちゃんが誕生したために何らかの情緒的問題行動をおこし、ひきつづき、現在もなお情緒的問題行動がのこっている子どもと、赤ちゃん誕生時には、情緒的問題行動はあったが、比較的早く落ちついた子どもについて事例研究をすることにより、どのような要因が影響してそのような差がでてきたのかということを明らかにしたい。

(2)方法 都内J幼稚園に協力してもらい、在園中の園児で赤ちゃんが生まれた子どもについて、担任教師に幼稚園での変化を質問紙に記入してもらった。質問紙の内容は調査用紙2の通りである。又母親に対しては赤ちゃん誕生後に接し方がかわったか、又子どもの様子にかわったことがあるかなど、家庭での子どもの扱い方及び変化などについて記入してもらった。又親には、親と子どもの関係をみるために親子関係テスト(愛育研究所第6部作成)を施行し、子どもには、現在どのような欲求不満をもっているかをみるためにH.T.Pテストを施行した。H.T.Pテストを用いたのは、被験者が図示的コミュニケーションによって、葛藤、動機、生活様式などパーソナリティーのさまざまな面をあらわすということと言葉を媒介としていないため、自分の気持をうまく言葉でいいあらわせない場合や、言葉では表現されないパーソナリティーの部分をとらえることが可能であるという利点があると考えたからである。

(3)結果 事例I A子(4才7ヶ月)、①家庭環境—①家族 母(42才)父(42才)弟(2才5ヶ月)弟(7ヶ月)、②父の職業—自営業 ③住宅—戸建 ④同居人—なし ⑤近くに面倒をみてくれる人がいるか—祖父(父方)60才 祖母(父方)58才 ⑥赤ちゃん誕生とわかった時の家庭での接し方及び変化—母がつわりがひどく入院しなければならず、その時お姉ちゃんになるのだからいい子にするようにいいきかせた。出産は大変喜んだ。母の本児に対する接し方は、今までとかわらなかつた。⑦赤ちゃん誕生後の幼稚園での様子—弟誕生後、非常におちつきがなくなり、話を静かにきくことができない。たえず体を動かしている。素直さがなくなり、教師のいうことがきけなくなり、友達をいじめるようになった。又すぐ泣くようになった。しかし友達が困っている時、助けてあげるといいうやさしい面も持っている。⑧最近の幼稚園での様子—友達にいたずらをしたり、ぶつというようなことがあるため、遊びの中に入れてもらえないことがある。又、本児自身も集団遊びの中に入ることには抵抗を示している。教師に「～しましよう」といわ

れても一度ではなかなかできず「いやだ」「どうして」というようになり素直さが無い。⑤親子関係テスト—期待、盲従、矛盾に危険域を示す。消極的拒否、干渉、溺愛に準危険域を示す。⑥H.T.P.テスト—本児は、依存的であり、自分を他人に印象づけようという欲求をもっているのだが、受動的な仕方によって環境と関係をもつことをしないひきこもりがちの傾向がみられる。又、自分の心の安定を求めたり、自立しようとする欲求がみられる。

事例Ⅱ B子（6才4ヶ月）

①家庭環境—①家族 父（34才）母（32才）妹（7ヶ月）②父の職業—会社員 ③住宅—戸建 ④同居人—祖父（父方）73才 祖母（父方）66才 ⑤赤ちゃん誕生とわかったときの家庭での接し方及び変化—接し方は以前とかわらなかつたが、子どもは、以前より甘えるようになった。⑥赤ちゃん誕生後の幼稚園での様子—先生に指示を求めたり、質問することが多くなった。すぐ泣くようにもなった。又お弁当をぐずぐずたべるようになった。又強情で、いわれたことをすぐにしないう傾向がある。もともとマイペースで機敏さにかげ、集団にとけこみにくく何かあるとすぐ泣く傾向がみられた。④最近の幼稚園での様子—尿の回数が異常にふえた。行動がおそく仲間はずれになることが多く、友達関係のトラブルも多い。又本児は、しかられると頑固になり口をとぎしてしまうことがある。⑤親子関係テスト—危険域はなく、溺愛のみに準危険域を示す。⑥H.T.P.テスト—自己拡大の欲求を示すと同時に自己顕示をしたいという欲求をもっている。又融通がきかず性格が硬く外界への適応はうまくない。又、依存的であり、他人からの暖かい愛情をうけたいという欲求をもっている。

事例Ⅲ C男（6才6ヶ月）

①家庭環境—①家族 父（38才）母（37才）兄（11才11ヶ月）弟（9ヶ月）②父の職業—会社員 ③住宅—戸建 ④同居人—祖父（父方）73才 祖母（父方）61才 叔母（父方）31才 ⑤赤ちゃん誕生とわかったときの家庭での接し方及び変化—下の子どもがねた時など、母に抱きついて甘える。以前より甘えるようになった。母の接し方はかわらなかつた。⑥赤ちゃん誕生後の幼稚園での様子—園では、物を投げたり、物の扱い方が非常に乱暴になり、遊びの中でも、ちょっとしたことでいい争いになったりしてぶつぶついい友達をいじめたり友達とのトラブルも多くなった。又、大声や奇声を発するようになり、落ちつきがなくなった。先生に質問したり指示を求めることが多くなった。④最近の幼稚園での様子—友達とのトラブルも少なくなり、誰とでもよく遊ぶ、又、で

きない友達に手をかすなどのやさしい面もみられ、おちついてきた。⑥親子関係テスト—危険域なし、期待に準危険域示す。⑥H.T.P.テスト—自分が保護されたいという欲求がみられると同時に依存的欲求も強くみられる。不安感をもち、それを解消し、自分の安全性を維持していかうとしている。

事例Ⅳ D男（6才10ヶ月）

①家庭環境—①家族—父（35才）母（33才）弟（3才6ヶ月）弟（5ヶ月） ②父の職業—会社員 ③住宅—アパートからマンションに引越す。④同居人、近くに面倒をみてくれる人—なし。⑤赤ちゃん誕生とわかった時の家庭での接し方及び変化—1人寝をさせるようになった。子どもは以前より甘えるようになった。⑥弟出産後の幼稚園での変化—幼稚園にくるのをいやがるようになり、登園拒否を一時した。（本人は腹痛のためという理由で）まげずぐらいで、すこしでも人より劣るとくやしがらる。幼稚園ではあまり笑顔をみせず遊びもブロックなど静かなものを好む。④最近の幼稚園での様子—お兄さんとして弟や妹のことをよく話すようになった。とても明かなくなり、大声をだして幼稚園の庭を駆けまわる姿がみられるようになった。⑤親子関係テスト—全く問題はみられない。ただ母親の神経質傾向が準危険域を示す。⑥H.T.P.テスト—硬い性格の持ち主であるが、他人に同調し、適応した生活もできるのである。しかし知的欲求が高く、他人に認められたいと思っているのだが、他の人からこうげきや拒否されるのを恐れてひきこもりがちになっているのである。自立したいのだが、いまだ自立できず、不安定なパーソナリティーになっている。(4)考察 赤ちゃん誕生後 情緒の問題をおこし、ひきつき問題行動がのこっている事例2例と情緒の問題行動をおこしたが、比較的早く問題行動がきえた事例2例について報告したが、各々について考察をくわえてみたいと思う。

事例Ⅰの場合は、まず環境的要因として、3人兄弟の一番上であり、まだ下の弟2人に母が手がかかり、お姉さんだからいい子でいるようにといわれ、本児の欲求はかなりおさえられてきているのではないだろうか。又、親子関係テストからみると、期待、盲従、矛盾に危険域がみられる。このことから考えると親の要求を子供に強要するということが考えられる。一方一切の権力を子どもにもたせ、どんな犠牲をはらっても、子供の要求をうけいれてやろうとする傾向がみられる。その結果、時と場合によって、しつけや態度に矛盾をきたしている。いわゆる一貫性の欠如している親の態度といえる。このような親の態度からおこる子どもの問題としては、子ども

は親の顔色をうかがうようになり、自主的に生活することができなくなってくるのではないだろうか。又、少しの欲求不満に対しても、泣く、あばれる、わめくなどの態度をとり、自己統制が欠けてしまうことがある。又自己中心的になり、周囲との協調性にかけ、常に他人の助けを期待する傾向がある。矛盾した育児態度に絶えず緊張を余儀なくされるのである。H.T.P テストからも、本児は、他人に自分を印象づけたいという欲求をもっているのだが、環境と上手に関係をもつことができなくひきこもりがちになっているのである。しかし自立しようという欲求をもっており、幼稚園で反抗的で案直でないというように思われているのではないだろうか。本児の場合は、子ども自身の問題もあるが、母親の育児態度が大きな影響を及ぼしていると考えられる。母親自身も何らかの原因で、自己の感情を統制することができず安定感を欠いているのではないかとと思われる。

事例Ⅱの場合は、第2子と5才9ヶ月離れているため、1人っ子の期間が長く、第2子誕生は、本児に大きな影響を与えその結果として身体的症状としての頻尿という型で、でてきてしまったと思われる。母親は、第2子出産まで働いていたが、第2子出産後仕事をやめ家庭に入った。母親と一緒にいられることは、本児にとって好ましいことだが、そこに第2子誕生ということがあり、母がどうしても弟に手をかけなければならず、それを見て不安定になったものと考えられる。又、母親が近所の母親と仲が悪いこともあり、それが子どもに影響を及ぼして、本児の友達関係が悪くなっているという面もあると思われる。H.T.P テストからは、本児が性格が硬く、がんこな所があるため、社会適応がうまくできず、友達関係もうまくいかず、集団にとけこみにくいという点がみられる。又、本児は「家」の絵を書かせた所、赤ちゃんが真中で、母が赤ちゃんに手をさしのべて、本児がみているという構図の家の中の様子をあらわす絵を書いている。本児にとって、第二子誕生は、かなり強い印象をうけていると同時に、他人からの暖かい援助をうけたいというあらわれといえるのではないかとと思われる。

事例Ⅲの場合は、事例Ⅱの場合と同じく5才9ヶ月はなれて、次子が生まれている。祖父、祖母、叔母が同居しており8人家族である。弟が生まれる前は、長男と本児が5才5ヶ月はなれていたこともあり本児は皆から大変かわいがられていたのが、弟が生まれたことにより一時的に情緒が不安定になりあばれる、落ちつきがなくなる、友達をいじめるなどの行動がみられた。が比較的早く問題行動がなくなっている。これは、家庭が非常におちついていて、母親にやや支配的態度がみられるものの、

父親が園の行事などにも積極的に協力するなど、かなり子どもの面倒をよくみて子どもにかかわっている。弟誕生後、本児の甘えたいという欲求を十分にみたしてあげた事も一因となっているであろう。小さい時に、十分甘えさせてもらった場合は、周囲に対し基本的信頼が育ち、その結果自立することが容易になるのである。又、H.T.P テストからみるといまだに問題行動が残っているように思われるが、本児の場合は、自我が順調に発達し、合理的な形で、うまく問題の処理が行われていると思われる。

事例Ⅳの場合は、弟が生まれる時、父親の海外出張と重なり、母子ともに精神的にかなり不安定な時期であった。弟が誕生することがわかってから一人寝をさせられたり、急に本児にとって変化がおきたため、大変ショックをうけ、一時的に登園拒否という型がでたと思われる。現在は明るくなり園庭を駆けまわるほどだが、第2子誕生直後は、静かな遊びを好んでいる。実際には、攻撃的行動をだしたかったのだが、それをだすことができず、内向していたものと思われる。それは、本児の H.T.P テストからも、予測できることである。現在は、父親も出張から帰ってきて、安定した生活をしているようである。

以上の4例を通して、赤ちゃん誕生により、今までの自分の位置が不安定になり、さまざまな問題を提することがわかる。家庭で親は特に問題と感じていない場合でも幼稚園でその不満を発散している場合が多い。子どもにとって家庭環境、特に両親の育て方が大きな影響を及ぼすが、本人の自我が、どのように育てられてきたかということ、つまり小さい時の扱い方が大切であり、さまざまな欲求をどのように処理していけるかが一つの課題であろう。子どもの小さい時は、生理的欲求、安全確保の欲求、接触したい、愛情を得たい、承認されたい、などが中心になるとと思われる。特に小さい頃、母親が十分甘えさせ、まわりつかせたかが、将来に大きな影響を及ぼすと考えられる。子どもの場合は、自我そのものが大人のように十分発達していないため、少しのストレスや葛藤などによって退行がおりやすいと考えられる。自我が発達した健康な人は、不安や緊張などの場面に出くわした時、合理的な形で処理できるけれど、未熟な人はうまく処理できず、問題行動をおこしやすいと思われる。エリクソンは自我発達論の中で「自我形成の出発点では、乳児期に母親との間で母性が十分与えられたかどうかということにより外界に対する信頼、不信任感が生じるとされている。又、第二段階にすすむと、お母さんというのが、認識でき、自分で何事もやりとげたいと

いう意志がめばえてくる。自律性が育ってくるのである。この時期に母と子の相互性が育ってくる。これがないと周りは信じられなくなり、自分のからにとじこもってしまう。それから幼稚園ぐらいの時期で、男として女としての役割が自覚されていくのである。その後小学校に入学すると、外部の世界・知的世界へと向かい劣等感がめばえる時期でもある。青年期に入るとアイデンティティーができあがる。うまくできあがるとその後の人生に於て人と密接な関係をもつことができるようになる。どの段階が欠けているかを見ることが大切である。最も大事な事は、現実をありのままに直視する強さをもつように育てることが必要になってくる」とのべている。又IV例にみられたが父の存在が大きい場合もある。父親を通して子どもは社会のきびしさや現実のきびしさを学んでいくものである。自我の弱い未熟な段階では、母性原理を大いに用いることが必要であるが、だんだん自我が育ってきたら父性原理が必要になると思われるが、子供が小さい場合には、父親は、母親をサポートする役目をとる必要があると思われる。

今回の事例研究では、幼稚園場面でみられた赤ちゃん誕生による子どもの変化をみたが、幼稚園で欲求不満をあらわすことができず、家庭で発散している場合も多いと思われる。この点については今後の研究課題にしたいと思っている。

IV おわりに

われわれは臨床経験から、赤ちゃん誕生前後に於ける兄、姉の扱い方が、兄・姉に心理的な影響を与えるという知見を得てきたが、第2子誕生時にどのように母親が感じて第1子を扱ってきたかにつき、アンケート調査を通じ、その実態を知ることが出来た。また、赤ちゃんが

誕生後に情緒障害を起こした子どもについて事例研究を行った結果、両親を中心とした家族が赤ちゃん誕生に際して、兄、姉をどのように扱い、赤ちゃんを家族の一員としてどのように迎え入れていったら、よい家族の関係をつくっていくことが出来るか、このことは兄、姉の問題だけでなく、生まれた赤ちゃん及び両親や他の家族の成員にとっても大切なことだということが明らかになったと思う。

母親の妊娠中から、母親学級などで、赤ちゃん誕生に際し、兄・姉の心理や扱い方、家族の人間関係などについて話し合うことも必要だと思う。また、母親だけでなく、父親や祖父母にこの問題についての理解を求めていくことによって、子ども達の情緒障害の発生を予防し、よりよい家庭をつくっていくことができると考えている。

参考文献

- 1) アンナ・フロイド岩村他訳 著作集第1巻 児童分析入門. 1981年10月 岩崎学術出版社
- 2) 品川不二郎, 孝子著: 親子関係診断テキストの手引 日本文化科学社 昭和33年
- 3) 小林重雄著: グッドイナフ人物画知能検査ハンドブック 三京房 昭和52年
- 4) 高橋雅春著: 描画テスト入門 文教書院 昭和54年
- 5) 土居健郎著: 「甘え」の構造 弘文社
- 6) 文部省(昭和59年)現代の家庭教育一乳幼児期編 ぎょうせい
- 7) 小田昇: 弟妹の出生に対する3歳児の兄弟葛藤反応 第29回 日本小児健康学会
- 8) 前田重治: 親子関係の障害と問題行動 安田生命社会事業団

Influence of the Birth of a New Baby on Elder Siblings
and its Countermeasures

Toshiko	GONDAIRA
Kiyoe	YAMAMOTO
Ryoko	Hieda
Shizuko	YUKI
Masako	YAMADA

From our clinical experiences, we have acquired the knowledge that the ways how parents handle their elder children before and after the birth of a new baby produce some psychological influence on them. This knowledge led us to investigate and study on how the birth of a new baby affects its brother or sister.

(1) Analysis of the results of the investigation into mothers

To learn the actual status on what kind of change is brought about on the first child because of the birth of the second child and how the mother handles the first child then, we questionaired the mothers of kindergarten children for the investigation.

The findings were : 1) the birth of the second child is much anticipated, 2) most mothers do not particularly train their first children because of the birth of their second children, but the mothers who finished only junior high school are disposed to make their first children stand on their own feet, 3) most of the changes seen in the first child after the birth of the second child are to begin to fawn upon his/her parents. The children of the mothers who finished only junior high school less fawn upon their parents.

(2) As to the children who began to manifest emotional problem behaviors because of the birth of new babies while they were kindergarten children, the case study was made of the children who are still showing the problem behaviors and of those who have overcome the problems relatively quickly.

As the result of such case studies, it was found very important how the parents can handle their elder children and keep good human relations among family members when the new baby was born. It was also found necessary to help the children develop their egos normally so that they may cope with their own needs in the various situations satisfactorily.

For the favorable development of child's emotion, from the period of pregnancy, we think it is necessary for mothers to talk about the psychology, the ways of handling their elder children and the human relations among family members in the Mothers' Study Class. Also it is considered the outbreak of emotional disturbance can be prevented by having fathers and grandparents understand about the above-mentioned problems.

付表 1

調査のお願い

二番目のお子様がお生まれになるとわかった時、一番目のお子様をどのように扱われたか、またどのようになさろうと考えてられるかについて、お忙がしいところ恐れ入りますが、ありのまま該当個所に御記入下さい。

これを参考にして、子ども達の成長を考えていくために役立てたいと思っておりますので御協力頂きたくお願い申し上げます。

日本総合愛育研究所第6研究室
東京都港区南麻布5-6-8
電話 03-444-0216 (内線41)

所属 _____ 回答者名 _____

1. お子さまについて記入してください。

	性別	生年月日
第一子		昭和 年 月 日
第二子		昭和 年 月 日

2. 二番目のお子様がお生まれ当時のあなたとご主人について記入してください。

	第二子誕生時の年齢	結婚年齢	第二子誕生時の職業 (項目を囲んでください)	最終学歴 (項目を囲んでください)
父			自営 勤め人	大学 短大 専門学校 高校 中学
母			専業主婦 家事手伝い 自営 勤め人 パート	大学 短大 専門学校 高校 中学

3. 二番目のお子さまがお生まれ当時の同居人、使用人について記入してください。

お子さまとの続柄	父方か母方か	性別	年齢	学校・職業

4. 二番目のお子さまがお生まれ当時、祖父母、親戚、友人などお子さまの面倒を見てくれるひとが近くにいらっしゃいましたか。いらっしゃった方は次にご記入ください。

お子さまとの続柄	父方か母方か	性別	年齢	備考

5. 二番目のお子さまがお生まれ当時はどんな所にお住いでしたか。
 (項目を○で囲んでください)
 一戸建 マンション アパート 団地 その他()
6. 妊娠とわかった時、すでに生まれている子ども(お兄ちゃん、お姉ちゃん)の扱いについてどのようになさいましたか。あるいはなさいますか。
- A. 次子誕生をいつ頃知らせましたか、あるいは知らせますか。
 ア. すぐ知らせる →いつ頃(妊娠 ヶ月頃) イ. 時期をみて知らせる →いつ頃(妊娠 ヶ月頃)
 ウ. 自然にわかるまで知らせたい。 エ. 生まれてくるまで知らせない。
- B. どのように知らせましたか。あるいは知らせますか。
 ア. 抱っこなどされたがった時、お腹に赤ちゃんがいるからという。
 イ. 今度、お兄ちゃん、お姉ちゃんになるんだという。
 ウ. 赤ちゃんが生まれることをはっきりという。
 エ. その他()
- C. 出産時、お母様が入院中、上の子どもの世話は誰にたのみましたか、あるいはたのみますか。
 ア. 家で家族の人がみる(父親、祖父、祖母、その他の家族(), 同居人・使用人())
 イ. あずける (祖父、祖母、親せき(), ベビーホテル、その他())
 ウ. 手伝いに来てもらう(祖父、祖母、親せき(), 家政婦、その他())
- D. 上の子どもの世話はいつ頃たのみましたか。あるいはたのみますか。
 ア. 入院前 →いつ頃から() いつ頃まで()
 イ. 入院中
 ウ. 実家へ子どもといっしょに行く →いつ頃から() いつ頃まで()
- E. 退院後の育児、家事はどのようにしましたか、あるいはしますか。
 ア. 自分で イ. 家族で ウ. 手伝いをたのむ
 エ. 実家で オ. その他() カ. まだ考えていない
- F. 第2子妊娠とわかった時どのように感じましたか。
 ア. 嬉しかった イ. 不安だった ウ. 困った エ. 特に感じなかった オ. その他()
- ⑦の嬉しかった場合はどうしてですか (該当するものいくつでも結構です)
- 子どもがもう1人欲しいと思っていたから
 - 1人っ子では、かわいそうだと思っていたから
 - 同性がほしいと思っていたから
 - 異性がほしいと思っていたから
 - 主人が非常に望んでいたから
 - 祖父母が非常に望んでいたから
 - 上の子どもがほしがっていたから
 - その他()
- ⑧の不安だった、⑨の困った場合はどうしてですか (該当するものいくつでも結構です)
- 上の子どもがまだ小さくて手がかかるから
 - これ以上、子どもはいらさないから
 - 経済的に大変であるから
 - 住宅がせまいから
 - 主人が望まないから
 - ふたりともぞまないから
 - 勤めをつづけたいから
 - 自分の生活を楽しまいたいから
 - 高年齢出産になるから

- j. 自分の健康に自信がないから
- k. 病人（ ）の世話があるから
- l. 上の子どもに特に手がかかるから（なぜ？ ）
- m. 他の家族（ ）がのぞんでいないから
- n. その他（ ）

G. 第2子妊娠とわかった後で上の子ども（の兄ちゃん、お姉ちゃん）に対する接し方がかわりましたか。

- | | |
|---|--|
| ア. 排世のしつけ <ul style="list-style-type: none"> a. おむつを早くとろうとした b. 1人でトイレにいかせるようにした c. | ウ. 身のまわりのこと <ul style="list-style-type: none"> a. ごはんを1人でたべさるようになった b. 洋服を1人で脱ぎ着させる c. 1人寝をさせる d. その他（ ） |
| イ. 授乳 <ul style="list-style-type: none"> a. 母乳をやめさせる b. その他（ ） | エ. 子どもの世話を他人（誰に？）にまかせるようになった。 |
- オ. その他（ ）

H. 赤ちゃんが生まれたことで上の子ども（お兄ちゃん、お姉ちゃん）の様子にかわったことがありますか。

- | | | |
|---------------------------|---------------------------|----------------------|
| ア. 以前より甘えるようになった | イ. よそよそしくなった | ウ. 自分のことは自分でするようになった |
| エ. 今までできていたことができなくなった | オ. おもらし、おねしょをするようになった | |
| カ. 食事をたべさせてもらいたがるようになった | キ. 食事を1人で食べるようになった | |
| ク. 1人寝をするようになった | ケ. 1人寝をしなくなった | |
| コ. 衣服の着脱ができるようになった | サ. 衣服の着脱を親にしてもらいたがるようになった | |
| シ. その他気がついたことがあったらお書き下さい。 | | |

()

7. 次のことにお答え下さい。

- | | | | | |
|-----------------------------|-------|---------|-------|-----------|
| ア. あなたはこまかいことが気になる方ですか | _____ | a. いつも | b. 時々 | c. 気にならない |
| イ. 何事も前もって準備していないと気になりますか | _____ | a. いつも | b. 時々 | c. 気にならない |
| ウ. 人の世話になることが気になりますか | _____ | a. 気になる | b. 時々 | c. 気にならない |
| エ. 自分の思い通りにならないと気になりますか | _____ | a. 気になる | b. 時々 | c. 気にならない |
| オ. 人の意見をきいたり相談したりできますか | _____ | a. できる | b. 時々 | c. できない |
| カ. 周囲の人が気をきかせて援助してほしいと思いますか | _____ | a. いつも | b. 時々 | c. 思わない |
| キ. 困った時人に援助を求めますか | _____ | a. いつも | b. 時々 | c. 求めない |

付表2

調査のお願い

前は妊娠・出産時の母親についての調査にご協力いただきありがとうございました。今回は、同じ母親が妊娠した頃、幼稚園での子どもの行動の変化や、母親の子どもに対する扱い方などについて更に調査いたしたいと思います。各項目について該当するものがあれば()内に○印をつけていただき、具体的な内容についても書き添えていただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

1. 先生にベタベタ甘えるようになった。()
2. 先生に指示を求めたり、質問することが多くなった。()
3. 先生のいうことをきかなくなった。()
4. 先生の手伝いなど積極的にするようになった。()
5. 友達をいじめるようになった。()
6. 友達と仲良く遊ぶようになった。()
7. 親から離れにくくなった。()
8. 幼稚園に来るのを嫌がるようになった。()
9. 母親から離れやすくなった。()
10. 今まで出来た課題が出来なくなった。()
それは何ですか。()
11. 身のまわりのことで今まで出来ていたことが出来なくなった。()
それは何ですか。()
12. 赤ちゃんことばを多く使うようになった。()
13. おもらしをするようになった。()
14. 身のまわりのことがさっさと出来るようになった。()
15. おもらしをしなくなった。()
16. 集団行動がとれなくなった。()
17. お弁当をぐずぐず食べるようになった。()
18. 物の扱いなど乱暴な行為が多くなった。()
19. すぐ泣くようになった。()
20. 泣いたらなかなか泣き止まない。()
21. ぼんやりすることが多くなった。()
22. おこりっぽくなった。()
23. 大声や奇声を発するようになった。()
24. おちつきがなくなった。()
25. 目をパチパチさせたり、顔を歪めたり、空咳をしたり、吐きやすくなったりなど、何らかの身体症状をしめすようになった。()
それは何ですか。()
26. お腹や手足など身体の一部が痛いと訴えるようになった。()
それは何ですか。()
27. 忘れものが多くなった。()
28. 衣服がだらしなくなった。()
29. お弁当の中味が変わった。()
30. 遅刻が多くなった。()
31. お迎えが遅くなった。()
32. 母親が保護者会に欠席がちになった。()
33. その他気づいていらっしゃるがありましたらご記入ください。
()

組

さん